

主流メディアの崩壊と 2021 年に彼らのついた最大のウソ

Brandon Smith | Alt-Market.us

January 3, 2022

<https://www.infowars.com/posts/the-fall-of-the-mainstream-media-and-the-biggest-lies-they-told-in-2021/>

⇒2021 年に明らかになったこと、それは——主流メディアが、ビッグ政府からビッグファーマまで、政治と企業のエリート主義者の、プロパガンダ部門だということ。

過去 1 年間に何かを確認されたとするなら、それは主流メディアが徹底して不正直者だということである。

そう、ほとんどの人々が、すでにそれに気づいている。しかし、この 12 か月間で、過去数年を合わせたよりも、もっと確実にそのことが明らかになった。2021 年に明らかになったことは、主流メディアは、大きな政府から大製薬企業に至るまで、政治的・企業のエリートたちの、プロパガンダ部門を担当しているということだ。

主流メディアには、わずかに独立した、ほとんど偏見を持たないジャーナリズムの、光った例がないことはない。しかし、それらの瞬間は、ネス湖の怪物の目撃のようにまれであり、ほとんど信じられないものだ。一般大衆は徹底してウソを信じ込まされているので、正しいジャーナリズムが、たまに語られても、それを無視する。なぜなら、メディアは常に不正直なものと考えの方が、安全だからである。

私が最近、個人的に気づいていることだが、ニューヨーク・タイムズのような格式ある大きなメディアが、大量の宣伝にカネを払っており、それは彼らが現在も正しいことを言っていると、必死になって大衆を信じさせるためである。そのメッセージは、彼らがニュース情報の唯一の「真のソース」だということだが、実は彼らは、人々に購読の再開をお願いし、もう一度、彼らのホット・ガーベッジ（ゴミくず）を読んでほしいと考えているのである。左派のメディアは崩れつつあり、バズフィード（Buzzfeed）や Vox のような、オンライン・プロパガンダ行商人や、クリックで釣る売春業などは、内部爆発しつつある。利益が底をついているのは明らかで、一時解雇は悲惨なことになっている。

<https://www.cnbc.com/2020/07/14/vox-media-preparing-round-of-layoffs-due-to-coronavirus-business-impact.html>

これらの言論機関は、過去数年の間、テク・メディア宣伝や、ベンチャー起業資本によって生き残っていたが、フリーマネーが底をつき、いま彼らは、なすすべがなくなっている。バズフィードの計略はこれを公開して、シェアを売るつもりだったのだが、この計画は完全に失敗して、会社の株はひどく下がったので、この出来事は、他のすべての新米のテク・メディアを、より大きく警戒させることになった。言い換えると、誰もこれらの情報を信用せず、少なくともそれに投資をしなくなり、今、彼らの「成功」と思われたもののベールが剥がされてしまった。バズフィードは、彼らの資産は 15 億ドルだと言ってきたが、現実には、それはほとんど無であることがわかった。

<https://seekingalpha.com/article/4475235-buzzfeeds-stock-price-plunge-suggests-their-spac-deal-had-irrational-valuations>

<https://www.theverge.com/2021/6/25/22548797/buzzfeed-spac-facebook-shares-peretti-complex-huffpo>

格式あるメディアはまた、その購読者数が、過去 10 年の間に最低を記録しており、特に昨年は、特別に厳しかった。大手の企業ニュース・チャンネルのすべてにおいて、視聴率が低下し、中でも CNN が最も大きく落ちた。CNN は 2021 年のプライムタイムでは、68 パーセントという膨大なカットに直面し、一方、MSNBC は現在、2016 年に経験して以来、最小のプライムタイム視聴者をもっている。Fox もまた、今年、視聴者の減少を経験したが、これまでのところ、最も見られている有線放送ニュースを継続している。おそらくそれは、タッカー・カールソンのようなコメンターの、継続する人気のためであろう。

(不正) 選挙の扱いがいいことに、不満な人々がおられるかもしれない。しかし 2021 年には叫ぶべきニュースが、あまりにも多かったのである。この年は、何百万という人々が、いまだに在宅勤務を強いられ、断続的に Covid 制限を受けなければならない。これはまるで恐怖の機械に怯える囚われの聴衆のようだ。これは地獄である。ユーチューブなど、いくつかの社会メディアでさえ、主流メディアの内容を、毎日のように我々に押し付け、他のどんな考え方も許さないようにしている。しかしそれでも、彼ら主流の数は依然として減る一方で、聴衆はこれを笑っている。

ユーチューブは Dislike (いいえ) ボタンを使えないようにして、企業メディアやホワイトハウスが受けるビデオの、あらゆる滑稽な親指下げ (反対) の攻撃から、守ろうとさえしている。彼らは、我々卑しい身分の者が、不満の声をあげることを許さないのだ。

では人々は、主流メディアでなければ、彼らのニュースをどこに求めればいいのか？ 統計の結果は、独立ソースからはうまく得られないとしても、ビューアーや購読数から見て、代替メディアが、急速に、情報の支配権を握りつつあるのは明らかである。私自身の視聴者数も、過去 2 年間だけで、少なくとも 30% は跳ね上がっているから、これは保守派や自由派メディアの、世界全体の傾向と思われる。ユーチューブ・チャンネルの統計を教える

Social Blade のようなウェブサイトは、代替メディアが、主流のメディアになりつつあるという結論を支持している。なぜこういうことが起こっているのか？ それは実はかなり昔から起こっていた。主流メディアの数は、何年も前から下降しており、彼らの購読者年齢による控除は、劇的に増加している。これは、主流メディアの仮面が完全に剥がされ、「文化戦争」と我々の呼ぶものが明かになった 2016 年以降に、加速されている。

視聴者の移動は、娯楽や大衆文化メディアにおいては、否定できないものである。ディズニー、タイム・ワーナー、Comcast、Viacom など、企業の金庫からの、恒常的なキャッシュの流れを基金とする主流媒体は、かつては娯楽出版で支配的地位を占めていた。現在、背後に数十億ドルをもつその活動は、Greeks And Gamers, The Quartering, Nerdrotic, Clownfish TV 等のような、低価格で自立できる、ユーチューブ・チャンネルによって、その力を殺がれている。

この失血があまりに恐ろしかったので、社会メディア会社たち（アジェンダを共有している）は、大企業とパートナーを組み、こうした種類のチャンネルを抑圧し、カネの流れを阻害し、彼らのアルゴリズムによる公的閲覧を消去した。代替チャンネルがそれほどの注目を受けるのは、彼らが人々の欲しがらるもの——企業のカネで買われ、支払われた意見でなく、正直な意見や分析——を提供するからである。

政治的・社会的な分野では、多大のサクセス・ストーリーが生まれ、Joe Rogan のポッドキャストや、Steven Crowder、Ben Shapiro、Blaze TV の ‘You Are Here’、Tim Pool など、その例は数限りない。経済メディアにおいては、Zero Hedge のような媒体が、何百万という読者を取り込み続けていて、ほとんどの他の主流機関がうらやましく思っている。

確かに、これらの情報ソースのある者たちは、依然として、数年前の我々がかつて考えられたような「陰謀論者」を見抜く演技をしている。それはよい。私は、なし得ることはもう何もないと言っているのではない。私が言っていることは、人々がメディアを消費するやり方に、革命が起こっているということ、そして少なくとも何らかの真理が、そこで正常に向かいつつあるということである。

私は代替メディアの内部で、16 年間も仕事をし、物を書いてきたが、多くのアメリカ人は、その間に、どれほど主流メディアの（作られた）物語から解放されたかを、理解していないと思っている。私がこれを始めたときには、我々が現在もっている購読者の数を、夢見ることさえ馬鹿げた空想と考えられた。今日私は、独立ジャーナリズムの成長に、大きな希望を見出しつつある。

事の真相を言えば、この数十年間、企業メディアは大衆を騙しつづけ、**彼らだけが**門番の資格をもち、情報の瓶の首を守護する者として働いている、と信じさせてきた。彼らだけが本当の「ジャーナリスト」だった。だが彼らは今、一般大衆の尊敬を失い、その門番の役は終わった。その点に注目して、なぜ主流メディアへの信頼が内部から爆発したのか、いくつかの理由を調べてみよう。MSM（主流メディア）によって、2021年に習慣化された、最大のウソのいくつかを眺めてみよう。・・・

[訳者 Greatchain 注]

この長い論文は、これで、まだ全体の3分の1であり、この後に「1月6日の〈反乱〉」「テキサス電力グリッドの失敗」「ファウチの〈機能獲得〉研究」「ワクチンを受けていない人々のパンデミック」「〈一時的な〉スタグフレーション」「Covidは映画館から観衆を遠ざけている？」と続くが、「主流メディアの崩壊」については、これで全部である。

この話題のついては、アメリカと日本は大きく共通すると思われるが、当然、全く同じではない。その点を可能な限り論じてみようと思う。まず、今のところ、わが国で「反乱」は起きていないが（昨年初頭の、米選挙をめぐる各地のデモを別として）、日本以外のほとんどの有力国では、内乱勃発を思わせるほどの、大きな反乱や暴力事件が起きている。これがよいか悪いかは、別の問題である。

地震のような天災のとき、わが国では略奪など起こらず、整然と行動すると言われているが、これはまた別のことのように思われる。整然とワクチンを受けるのはよいことか？ その点で、日本は進んでいるのか遅れているのかと言うなら、やはり（官民一体となって）遅れているだろう。

日本の大新聞が啓蒙のつもり書くことで、顔から火の出るような思いをすることが多々ある。このことがここでも取り上げられ、アメリカでも同様だとわかるが、やはり「目覚め」「革命」という点で、明らかに向こうが上である。これは、重大な海外ニュースが、わが国には入ってこないからでもある。ただアメリカで、国家存亡の危機を叫ぶ人々が多いのはなぜか？ それは、彼らの政府が、人命を軽視していると考えざるをえないからである。わが国では、そんなことがあるはずがないと、多くの人々が信じているように見える。この自信は恐ろしくもあり、不思議でもある。